

もっと楽しく 仙台発・大人の情報誌

りらく

別冊
りらく
多賀城編

多賀城東部の
歴史
と輝く人々
を訪ねる



多賀城創建記念
TAGAJO 1300th Anniversary
724 - 2024

CONTENTS

TAGAJI 1300th Anniversary
724 - 2024

表紙：中峯橋近くの陶板壁画。舟で米を運ぶ人々の様子

3 多賀城創建1300年

4 多賀城マップ

5 多賀城東部の歴史歩き

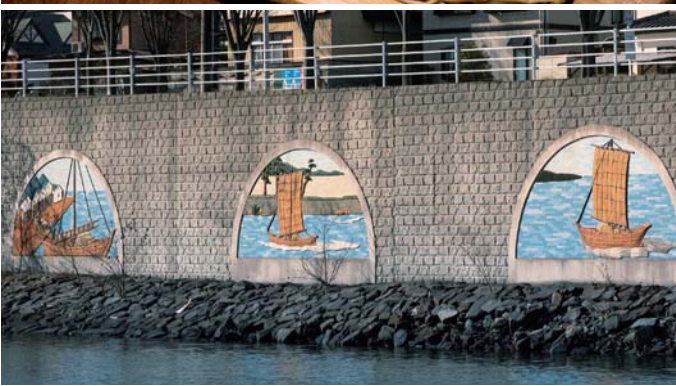
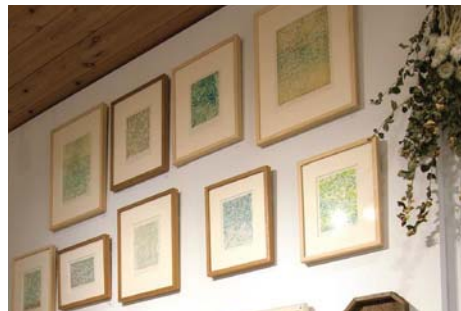
柏木遺跡
柏木神社
榊形囲貝塚
大代貝塚
大代横穴墓群

6 貞山運河からみる多賀城東部の歴史

仙台藩挙げての一大事業
御石改所と大代村の人々
貞山公園
大代の切り通し

8 地域で輝く魅力ある人々

高倉敏明さん／NPOゲートシティ多賀城代表
磯知之さん／洋菓子店ビュイダムール店長・パティシエ
後藤有美さん／陶芸家
榎田洋一さん
／大代地区公民館事務員
Player4代表
副島木綿子さん
／オフショアSOBA&COFFEE
あるがあくさん／版画家



多賀城創建1300年

724（神亀元）年に創建され、東北地方の政治文化の中心として栄えた多賀城。現代に残る多賀城跡は、平城宮跡（奈良県）、大宰府跡（福岡県）とともに日本三大史跡に数えられている。

創建について刻まれた多賀城碑は、那須国造碑（栃木県）、多胡碑（群馬県）とともに日本三古碑と呼ばれており、1998（平成10）年に国の重要文化財に指定された。碑文によると、多賀城を設置したのは大野東人で、の

ちに藤原朝が改修していることが分かる。これまでの発掘調査で多賀城内にある政庁は4時期の変遷があったとされ、朝鑑によつて改修されたⅡ期（8世紀中頃）。伊治公皆麻呂の乱で焼失後、復旧されたⅢ期、869（貞観11）年に起こった貞観地震から復興したⅣ期に区分されている。ちなみに、万葉歌人として知られる大伴家持が多賀城に赴任してきたのは、伊治公皆麻呂の乱のあと。混乱状態に陥った陸奥国を安定させる役目を負っていた。

最も栄えた時期といわれており、建築面でも機能性と装飾性を兼ね備えていたと考えられている。

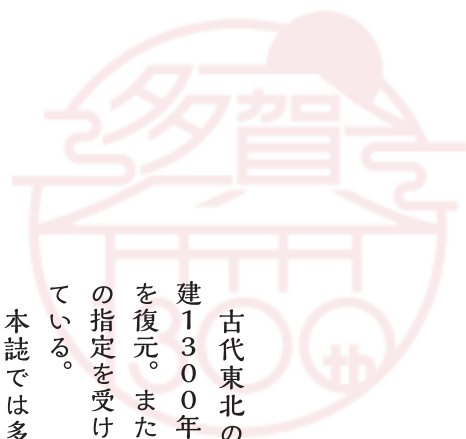
多賀城の入り口にあたる南門は、高さ14.5mの木造二重門で、築地塀の高さは4.5m。この頃から建築様式は、地面に穴を掘って柱を立てる「掘立柱式」から、礎石の上に柱をのせる「礎石式」へと変化しており、今回の復元工事も礎石式が採用されている。柱に使うのは、主に栗の木。自然の石の不規則な凹凸に合わせて柱の底を削り、安定させる。栗の木は非常に堅いため、熟練の宮大工でも大変な労力が必要だ。表面を削る仕上げには古代から中世にかけてよく使われていた檜杵が使われた。屋根瓦も出土したものから型を取り、忠実に再現している。

かつて3度にわたり改修・復旧を繰り返した多賀城。その一部が、日本が誇る職人たちによって令和の時代に再びよみがえる。



多賀城創建1300年を迎えた今年、その記念事業として、多賀城南門とそれに取りつく築地塀の復元や、南辺地区の整備が進んでいる。現存する奈良時代の建物等を参考に、作成された設計図は政庁Ⅱ期のもの。多賀城が





古代東北の政治・文化の中心地だった多賀城。創建1300年を記念し、特別史跡の多賀城跡に「南門」を復元。また創建の年代を記した「多賀城碑」が国宝の指定を受けるなど、その歴史的価値に注目が集まっている。

本誌では多賀城跡のある西北エリアから海寄りの東部エリアを紹介。貝塚や製鉄所跡などの遺跡が点在し、藩政時代に造られた貞山運河が南北に走る。連綿と続く人の営みを感じるエリアだ。ぜひ訪れていしえの時に思いを馳せてみてはいかがだろう。



電車でお越しの場合
JR 仙石線 多賀城駅下車
(仙台駅から約 22 分)



車でお越しの場合
東北自動車道 仙台南 IC から約 40 分





昭和62（1987）年に行われた発掘調査で、奈良時代（8世紀前半頃）

の製鉄炉、木炭窯、鍛冶工房跡などがまとまって発見された。多賀城跡の南東4.5kmに位置し、多賀城直営の製鉄所跡と考えられている。平成2（1990）年には特別史跡多賀城跡附寺跡に追加指定された。

柏木遺跡

多賀城市大代5・16・40

多賀城東部の 歴史歩き

柏木神社

多賀城市大代5・17・50

鹽竈神社の神に随従するとされる藻塩場老翁、もしおばのおじ藻塩場老女を祀る神社。仙台藩の儒学者、舟山万年が記した『塩松勝譜』には、二神が柏の葉を好むため境内には柏の木が生い茂っているとある。現在の境内は昭和前期に移った場所、移動前の境内地には柏の木が多く見られたかもしれない。



梶形囲貝塚

多賀城市大代6・5

大正8（1919）年の発掘調査で見つかった、弥生時代の貝塚。研究者のひとり、山内清男が発見した、稲

粳の痕跡がある土器（粳圧痕土器）は、東北地方でも弥生時代に稲作が行われていたことを示す重要な根拠となった。『人類学雑誌』に発表された論文「石器時代にも稲あり」は有名。



大代貝塚

多賀城市大代5・10

大正8（1919）年に発見された、約2800年前の縄文時代の貝塚。別名を橋本囲貝塚とも言う。東北大学医学部の長谷部言人によって市内で最も古く発掘調査が行われた遺跡である。ハマグリやカキを中心に、4体分の縄文人骨も見つかったため、全国の考古学者や人類学者の注目を集めた。



大代横穴墓群

多賀城市大代5・8

県道58号沿いの崖面に掘られた、古墳時代の豪族の横穴墓。7世紀から8世紀にかけて造営されたと考えられており、35基を確認している。昭和59（1984）年に行われた調査で出土した副葬品のなかには金銅で装飾された大刀もあり、中央政権との結びつきを示唆している。



貞山運河からみる多賀城東部の歴史



仙台藩挙げての一大事業

多賀城市の東端を南北に1本の水の道が通っている。塩釜湾と七北田川の河口である蒲生を結ぶこの水路は「御舟入堀」といい、蒲生と名取川を結ぶ「新堀」、名取川と阿武隈川を結ぶ「木曳堀」と合わせて「貞山運河」と呼ばれている。全長7kmにも及ぶ御舟入堀が完成したのは寛文13（1673）年、仙台藩の4代藩主、伊達綱村の治世のことで、令和5（2023）年は完成からちょうど350年の記念の年であった。

御舟入堀の掘削は、万治年間（1658～60）には開始されたと考えられており、藩領北部からの米を舟で城下近くまで輸送することを目的に作られた。それ以前は、藩領北部から運ばれた米は塩釜港で下ろされ、塩竈街道を通って陸路で城下に運んでいた。



しかし、途中急な登坂もあるこのルートでの運搬は困難を伴っていたことから、御舟入堀の完成は仙台藩における米の大量運搬に大きく貢献することになる。

御石改所と 大代村の人々

御舟入堀沿いの大代村には、水路を往来する年貢米の輸送などを監視し、米穀密売買を取り締まる藩の施設が置かれていた。これを「御石改所」といい、その場所は、現在の多賀城市大代1丁目にある橋本橋の西たもと付近であるとされている。この付近に住んでいた大代村の人々は、1日交代で番所に詰めて藩の御用船の世話などをし、その代わりに年貢を免除されていた。御舟入堀と地域の関わりの歴史が垣間見える。





貞山公園

多賀城市笠神5,7

多賀城駅から車で約10分の貞山運河沿いにあり、公園に隣接した笠神プレジャーボートスポットには小型の釣り船が数多く停泊する。川風を感じながらゆっくりと散歩するのにぴったりの場所だ。

南に進み中峯橋まで行くと、撮影スポットが。舟運の歴史を伝える大きな陶板壁画が並んでいるのが見える。船やボートで貞山運河を進むときにはぜひとも近くで観賞したいもの。塩竈市浦戸寒風沢島から仙台城下へ米を運ぶ様子が大迫力で描かれている。



大代の切り通し

貞山運河は中峯橋付近で川幅が約30mと狭くなる。この場所は切り通しと呼ばれ、本来塩釜湾から延びる谷と南側の微高地を遮っていた岩山を南北に約400m掘削して水路を通してしている。硬い岩山を削る工事は困難を極め、その過酷な労働に罪人をあてたという話も多賀城町時代の町誌に紹介されている。

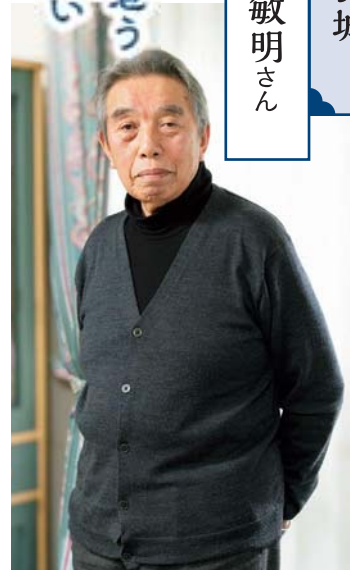
難工事を経て完成した切り通しは、両脇の木々が川面に映り、新緑の季節になるとひととき美しい景観を作り出す。

地域で輝く魅力ある人々

NPOゲートシティ多賀城

代表 高倉 敏明さん

いにしへの暮らしを思う
史跡の魅力を伝えたい



灯明皿に供養の灯をともし「万灯会」。毎年3月11日に多賀城駅前行われる震災追悼イベントだ。「東大寺に記録が残る仏教行事で、平安時代に多賀城でも行われていたんです」と説明するのは、史跡を生かしたまちづくりに取り組むNPO「ゲートシティ多賀城」代表の高倉敏明さん。

高倉さんは多賀城市の文化財



高倉さんの著書、日本各地の遺跡を紹介するシリーズの「多賀城跡」。自ら発掘に関わった遺跡や特別史跡などについてまとめた

専門職として35年、国司の邸宅跡「館前遺跡」や陸奥守の邸宅跡「山王遺跡千刈田地区」など、特別史跡に追加指定された重要な発掘調査に携わってきた。「発掘中にすごい遺跡だと分かった夜は眠れないほど興奮した」と振り返る。

「柏木遺跡」は、多賀城に関わる初の製鉄所跡で、証明するのに3年かかったそうだ。遺跡は調査発掘後たいてい埋めてしまう。高倉さんは南北大路の復元や漏刻ミニメント設置など、その時代を感じ取れる施設の整備に尽力してきた。

「足元に残る遺跡の価値を感じ、いにしへの町に思いをはせて欲しい」。創建1300年の今年はその絶好の機会と期待を込める。

登米市出身。昭和54年より多賀城市教育委員会（文化財専門職）で発掘調査に携わる。退職後、文化財専門委員として震災で被災した文化財調査を行う。現在は市民活動として多賀城・七ヶ浜のまちづくりに携わる

TEL.090-6227-7646 (代表 高倉)
http://gatetagajo.web.fc2.com/

洋菓子店ピュイダムール

店長・パティシエ 磯 知之さん

地元食材のケーキで
食べる人も作る人も幸せに



「どこことなく潮の香りも漂う、香りの良い小麦粉です」ピュイダムールでは、ケーキや焼き菓子に東松島産の小麦粉を使用。オーナーでパティシエの磯知之さんはその香りと味わいにほれ込んでいます。

運んで仕入れるものも多い。「食べる人だけでなく、周り（地域）の人も幸せにしたい」と磯さん。古代米や海苔のロールケーキなどは特にお土産としての需要が高い。

15年ほど前から、地域を盛り上げようと地元食材を積極的に使ってきた。多賀城の古代米や塩釜の藻塩、利府の梨、七ヶ浜の海苔、蔵王クリームチーズに美里町のパッションフルーツなど、直接生産者のところに足を

「常に食材を探す目を光らせている」そうで、休日に運河沿いを散歩していると、新しいアイデアがわくとか。「お客様が温かく見守ってくれているので、チャレンジできています。今後は通販にも力を入れて、地域の魅力を全国に発信したいですね」



- 1 アップルパイは、オープン当初から常連さんの熱い支持で人気ナンバーワン。地元食材のロールケーキはお土産に人気
- 2 オープンから30年。温かみのある美味しさを目指す。誕生日ケーキはことと決めている常連さんも多い

多賀城市笠神5-14-18 TEL.022-367-9150
9:30～18:30 (日・祝 9:30～18:00)
月・火曜定休

塩釜市出身。パティシエとして品川プリンスホテルや浦安シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテルなどを経て、1995年にピュイダムールをオープン。実家は塩釜でケーキ店を営む



- 1 銀座 蔦屋書店 GINZA ATRIUM (2021年) のグループ展にて。宮城県美術館収蔵のキャンディンスキーの作品からヒントを得た
- 2 砂浜に落ちているスカシカシパン(ウニの殻)をデザインし、浜の砂も練り込んだ「砂浜カップ」。塩釜「ビルドスペース」などで販売

開くなど、陶芸家として地元とのつながりを感じ始めている。

細やかな色彩のモザイクをまとった器。表現されているのは「絵画」だ。「セザンヌやゴッホなどの絵に描かれた色合いや陶磁器の形をモチーフに、練込という技法で作っています」と、陶芸家の後藤有美さん。

画面の絵画を拡大すると、ピクセル(画素)の集合体が練込の模様に見える」と話す。独創的な作風が注目され、都内で個展やグループ展が相次いで開催されている。

生まれ育った七ヶ浜町の自宅工房で作陶する。思い出が詰まった七ヶ浜の海は、今もふらりと散歩する。昨年度内初の個展を塩釜で開催した際に作った「砂浜カップ」には、そんな海の思いを込めた。中学校でも陶芸ワークショップを開くなど、陶芸家として

1997年宮城県七ヶ浜町生まれ。宮城野高校美術科で陶芸に出会う。2019年東北芸術工科大学芸術学部美術科工芸コース卒業

細やかな技法 絵画美術と重なりあう器

陶芸家

後藤 有美さん



- 1 多賀城市のイベントで利用したメタバース。政府跡で焚火を囲んでのおしゃべりも、仮想空間なら可能というわけだ
- 2 公民館では、年齢、性別、職業、国籍を問わない語り合いをするケアブレンドカフェを開催

分得得意なイベントやコミュニティを作れるようになるのが目標です」

メタバースとは、ネット上でアバター(自分の分身)を使い、ゲームや交流を楽しめる仮想空間のことだが、まだ実際に体験した人は少ないのでは。多賀城市大代地区公民館では毎月メタバース体験ツアーを開催。「青年会や婦人会と同じ、メタバースもつながりのひとつ」とは同館の榎田洋一さん。副業でメタバースの制作や運営を行う。

「公民館でも住民同士の交流を進めています。リアルに集まらない人の選択肢になれば」と、まずは地域住民向け体験講座を開

いた。すると小学生から80代まで参加が。昨年は多賀城市にサービスを提供。市長と若者が交流できるイベントでメタバースを利用してもらった。多賀城市には進取の気概があると感じた。

「役場の方が、東北の中心地として人や文化を交え、新しいものを取り入れてきた歴史がある地域だと言っています。多賀城市、やるなと思いました」

将来は不登校や引きこもり、障がいがあるなど外出できない事情の人にも場を広げたい。「みんなが自分で得意なイベントやコミュニティを作れるようになるのが目標です」

仮想空間の コミュニティを提供

大代地区公民館 事務員／Player4 代表

榎田 洋一さん



オフショア SOBA & COFFEE

副島 木綿子さん

100年前の倉庫をリノベーションある佇まいカフェ



貞山運河を望む川沿いに建つ「オフショア」。オーナーの副島木綿子さんは100年以上経つという倉庫の佇まいに一目惚れ。女性一人で気軽に立ち寄れるカフェにしたいと自らリフォームし、2022年に店を開いた。

「歴史ある運河のそばでコーヒーが飲める。それだけで素敵ですね。それと昔漁業で栄え

たこの地域の名残を一軒残してもいいんじゃないかって」

初めての飲食業だったが、「心と体を健康に」をコンセプトにメニューはすべて手作りに。10年ほど暮らしたスイスで各国の友人から教わったスイーツや、日本の健康食、こだわりの手打ちそばが好評だ。

副島さんの軽やかな雰囲気、穏やかに時が流れる空間。女性客が多く、カウンターは時に「悩み相談所」と化す。「私がここを実現したように、誰かのやってみたい」背中を押せる場所になるといいな」

ここからみんながいい波に乗れるように。店の名にも思いを込めている。



1 メインメニューの「常陸秋そば」(1,200円)は、石臼でひいて毎日手打ちする。かつおの風味香るまるやかな味わいのそばつゆも手作り。ベジスタイルの人には野菜出汁も用意している

2 古民家の倉庫を自らリノベ。ハワイの海やヨーロッパの落ち着いた雰囲気の内装インテリアなど多国籍なセンスが光る

多賀城市大代3-7-32-1
11:00～17:30 (LO17:00)
水曜定休
インスタグラム @offshore_sobacafe

仙台市出身。水泳のインストラクターでもあり、夏は仕事の前に波に乗るサーファーだ。海の近くに住まいを探して現在の場所にたどり着いた

版画家

あるが あくさん

感情にも似た 木漏れ日のきらめきを表現



絵具が揺らめいて、にじみ、かすれる偶然的の美しさ。あるが あくさんの版画は、木漏れ日のような自然の揺らぎやきらめきをやわらかく切り取る。

子どもの頃は父親とよく植物園や海に出かけてスケッチした思い出がある。自然の美しさを描くとき、自分が描く線では心もとなく思っていた。

「版画の力を借りて自然界の造形にすでにある美しいものと、自分の発想を組み合わせる感覚なんです」とあるがさん。基本は、版

を作った同じものをたくさん作りだすのが版画。ところが、木版や植物刷りの手法で、版を重ねて生み出されるあるがさんの作品はすべて1点ものだ。

2022年、大きなプレス機をみんなで見たいと、昔一緒に暮らした祖母の家を改装し、工房とギャラリーを開いた。

「初心者も経験者も集まる場にした」。ワークショップや作品を通して版画にある自由な楽しさを伝えていく。



1 ギャラリーでは会期中の展覧会に合わせて手作り雑貨が並んでいた。壁面の版画があるがさんの作品

2 国道45号沿い。貸しアトリエとしても利用できる

ギャラリー&版画工房 在る print studio
多賀城市下馬2-9-28
TEL.080-3338-6498
インスタグラム @arugaaku

多賀城市出身。東北芸術工科大学洋画コース版画専攻を卒業。美術学校での講師やイベント出展などを経て、2022年に工房&ギャラリーをオープン。木版画、銅版画の講座やワークショップを開催。個展、グループ展など多数



創建1300年という、この大きな節目のイベントを住民の私たちがもっと楽しんでほしいのではと思います。例えば、自分で何か企画するなどやりたかったことにチャレンジしてみる。いにしえから進取の気概ある多賀城人として「1300年」をきっかけに思いを実現する人が増えればおもしろいまちになると思っています。

大代地区公民館事務員
Player4代表
櫛田 洋一さん



創建から1300年という歴史がどれほどすごいことか、私たち市民はもっと知るべきだと思います。その歴史を今に繋いでくれた先人の知恵と情熱を絶やすことなく、さらに発展させるために歴史を知る。今年はそんなきっかけの年になると思います。

オフショア
SOBA&COFFEE
副島 木綿子さん



市の記念事業「ことばのアートプロジェクト版画編」の講師を務めさせていただきました。多賀城の歴史について、家族と話すことが増えました。1300年前の風景や当時の暮らしに思いを馳せるよい機会になっています。

版画家
あるが あくさん



過去に学び、 今を見つめる 多賀城創建1300年に思う

今年が多賀城の悠久の歴史、先人たちの営みを想う記念の年。縁あって今この地に暮らす人は身近にある歴史的価値をどのように受け止めているのか。前項に登場した皆さんに、今、そして未来への思いを語っていただいた。

多賀城跡は、東北の歴史を大きく変えた貴重な史跡。当時奈良の都と遜色ない技術や文化があったことは、学術的研究を重ね、立体復元した多賀城南門が示しています。創建の年代を記す多賀城碑は国宝級の宝なのでは。今後ますます価値が認められていくと思います。1300年の貴重な節目を市民としてもっと盛り上げたいですね。

NPO ゲートシティ多賀城
代表 高倉 敏明さん



政庁跡を歩くと歴史のパワーを感じ、不思議と良いアイデアが沸くんです。蔵王や泉ヶ岳を望める地形は創建の頃と変わらないそうで、四季の自然や時折見かける動物の姿に癒されますね。昔人も同じように景色を眺めたでしょうか。自然や命を繋いで生き続けてきた悠久の時間に気づかされます。大事にしていきたいですね。

洋菓子店ビュイダムール
店長・パティシエ 磯 知之さん



通学や通勤途中に見かけていた大代横穴墓群は古墳時代の豪族の墓。多賀城南門の復元工事の様子もたびたび見かけました。日々の生活の中で1300年の歴史に触れ、記念事業に立ち会えた今を貴重なことと改めて思います。

陶芸家
後藤 有美さん



りらく

別冊

2024年3月発行

(株)プランニング・オフィス社発行



多賀城創建記念

TAGAJŌ 1300th Anniversary
724 - 2024

りらく編集部 〒980-0811

仙台市青葉区一番町2丁目5番22号

電話 022-733-5781